

# ファイブロック®

区画貫通用テープ

保温材付スーパーエスロメタックス用

国土交通大臣認定品、(一財)日本消防設備安全センター性能評定品

### 取扱説明書

貫通する防火区画

コンクリート壁・床  
ALC壁・床  
中空壁・片壁

#### 製品仕様

品名	品番	厚さ	幅	巻長さ
ファイブロック 保温材付スーパー エスロメタックス用	FIB-FC	4.24mm	120mm	1.3m



WEB申請はこちらから  
<https://www.sekisui.co.jp/fp/>

#### 認定シールおよび評定マークのご案内

弊社では、防火区画貫通部の措置にファイブロック区画貫通措置部材をご使用いただいた場合、国土交通大臣認定を取得していることを示す『認定シール』をご用意しております。また、特定共同住宅等にご使用の場合、(一財)日本消防設備安全センター発行の『評定マーク』または『評定一括プレート』の貼付が必要です。ご請求方法は、1現場ごとに弊社ファイブロックHPの『認定シール・評定マーク/評定一括プレート申請』よりご請求願います。申請内容を確認の上、ご請求枚数の『認定シール、評定マーク等』を送付させていただきます。

#### 適用範囲

壁 ●用途/給水管、給湯管、冷水管

##### ALC・コンクリート(厚100mm以上)

貫通配管種	使用最大配管呼び径	開口寸法	国土交通大臣認定番号	(一財)日本消防設備安全センター性能評定番号	
				共住区画	
被覆金属強化ポリエチレン管 (スーパーエスロメタックスFC)	保温厚30mm以下	50A	φ208mm以下	PS060WL-0715	
	保温厚20mm以下	25A	150mm×250mm以下 φ150mm以下	PS060WL-0373	KK19-148号

##### 中空壁(厚100mm以上)

貫通配管種	使用最大配管呼び径	開口寸法 (外径+20mm以下)	国土交通大臣認定番号	(一財)日本消防設備安全センター性能評定番号	
				共住区画	
被覆金属強化ポリエチレン管 (スーパーエスロメタックスFC)	保温厚30mm以下	50A	φ144mm以下	PS060WL-0719	
	保温厚20mm以下	25A	φ93mm以下	PS060WL-0409	KK20-008号

※保温厚30mm以下について:壁厚110mm以上を使用する場合の施工方法につきましては、P.3標準施工例をご参照ください。

※保温厚20mm以下について:共住区画の場合 両面強化石膏ボード重張軽量鉄骨下地+グラスウール充填。

##### 片壁(厚42mm以上)

貫通配管種	使用最大配管呼び径	開口寸法 (外径+20mm以下)	国土交通大臣認定番号
被覆金属強化ポリエチレン管 (スーパーエスロメタックスFC)	保温厚30mm以下	50A	φ144mm以下 PS060WL-0698-1

床 ●用途/給水管、給湯管、冷水管

##### ALC・コンクリート(厚100mm以上)

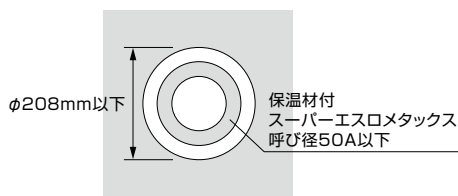
貫通配管種	使用最大配管呼び径	開口寸法	国土交通大臣認定番号
被覆金属強化ポリエチレン管 (スーパーエスロメタックスFC)	保温厚30mm以下	50A	φ182mm以下 PS060FL-0714

●詳しくは各認定書・評定書をご確認ください。

## 標準施工例 [ALC・コンクリート壁/保温材30mm以下の場合]

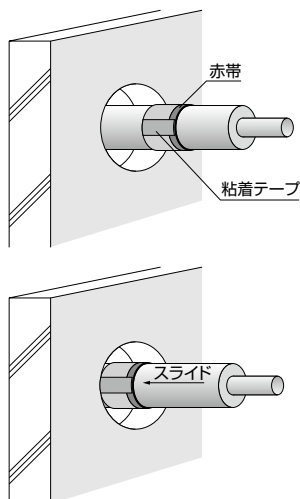
### 1. 開口部の設置

- 保温材付スーパーエスロメタックスが貫通する場所に開口部(208mm以下)を設けます。



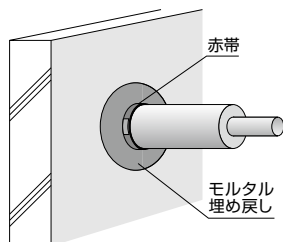
### 2. フィブロック区画貫通テープの巻き付け

- 表面の埃・汚れを除去します。
- 保温材付スーパーエスロメタックスの上から一周巻きつけるのに可能な長さにテープをカットします。
- 赤帯部分が施工後確認できるように、フィブロックを管に巻きつけ、粘着テープで固定します。(フィブロックは突き付け・オーバーラップのどちらでも可能です)
- 赤帯が壁面から数mm~10mm以下のはみ出し量となるように、フィブロックをスライドさせてください。



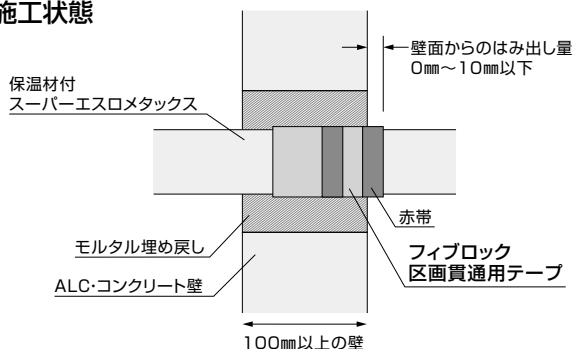
### 3. モルタルの埋め戻し

- 管と開口部の隙間をモルタルで充填します。



※フィブロックの赤帯部分が壁から数mm~10mm以下でいることを確認してください。

### ◎施工状態

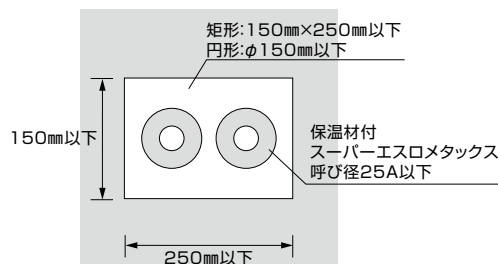


※フィブロックの赤帯部分が壁から数mm~10mm以下でいることを確認してください。

## 標準施工例 [ALC・コンクリート壁/保温材20mm以下の場合]

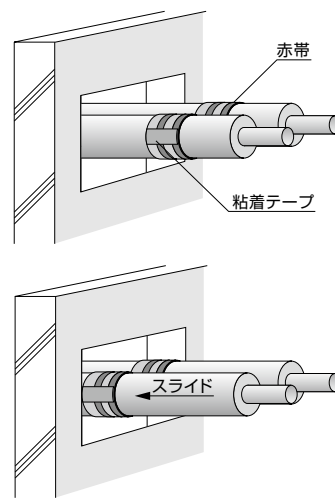
### 1. 開口部の設置

- 保温材付スーパーエスロメタックスが貫通する場所に開口部(矩形:150mm×250mm以下、円形:φ150mm以下)を設けます。



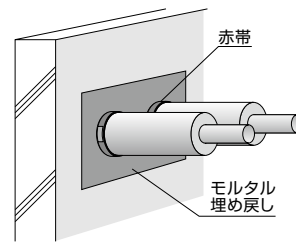
### 2. フィブロック区画貫通テープの巻き付け

- 表面の埃・汚れを除去します。
- 保温材付スーパーエスロメタックスの上から一周巻きつけるのに可能な長さにテープをカットします。
- 赤帯部分が施工後確認できるように、フィブロックを管に巻きつけ、粘着テープで固定します。(フィブロックは突き付け・オーバーラップのどちらでも可能です)
- 赤帯が壁面から数mm~20mm以下のはみ出し量となるように、フィブロックをスライドさせてください。



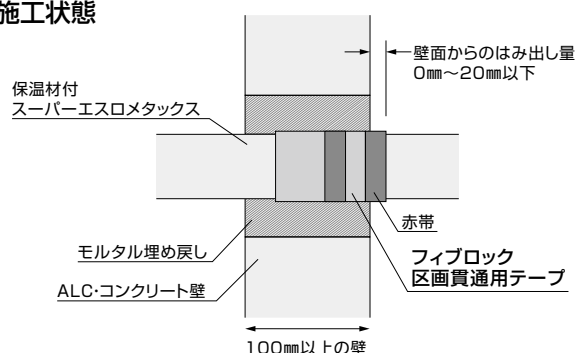
### 3. モルタルの埋め戻し

- 管と開口部の隙間をモルタルで充填します。



※フィブロックの赤帯部分が壁から数mm~20mm以下でいることを確認してください。

### ◎施工状態



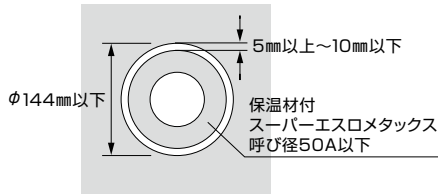
※フィブロックの赤帯部分が壁から数mm~20mm以下でいることを確認してください。

⚠ (一財)日本消防設備安全センターの評定を取得しておりませんので、  
共住区画の貫通部には使用できません。

## 標準施工例 [中空壁/保温材30mm以下の場合]

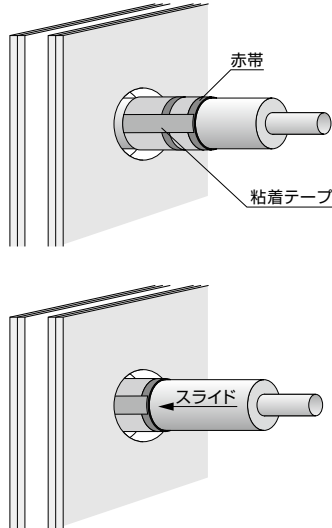
### 1. 開口部の設置

- 保温材付スーパーエスロメタックスが貫通する場所に開口部(φ144mm以下)を設けます。



### 2. フィブロック区画貫通テープの巻き付け

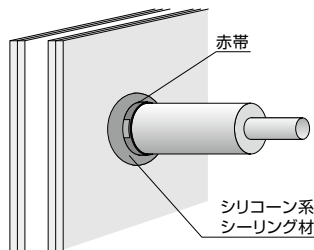
- 表面の埃・汚れを除去します。
- 保温材付スーパーエスロメタックスの上から一周巻きつけるのに可能な長さにテープをカットします。
- 赤帯部分が施工後確認できるように、フィブロックを管に巻きつけ、粘着テープで固定します。(フィブロックは突き付け・オーバーラップのどちらでも可能です)
- 赤帯が壁面から0mm~10mm以下のみ出し量となるように、フィブロックをスライドさせてください。



### 3. 開口部のシーリング処理

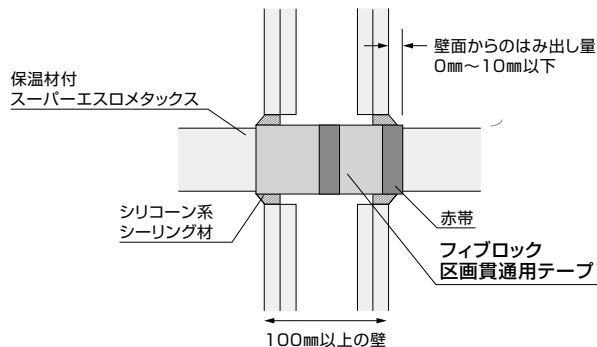
- 管と開口部の両側の隙間をシリコン系シーリング材で充填します。
- 使用可能なシーリング材

建築用シーリング材(JIS A 5758)  
シリコン系  
※推奨品:セキスイシリコンシーラント



※フィブロックの赤帯部分が壁から0mm~10mm以下でていることを確認してください。

### ◎施工状態



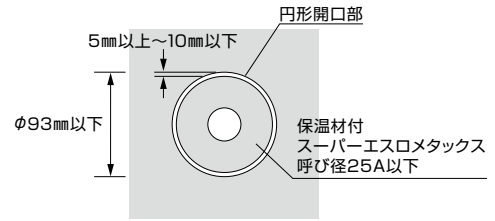
※壁厚110mm以上に使用の場合は、壁の開口部両側に赤帯が出るようにフィブロック2枚をオーバーラップさせて巻きつけてください。

⚠ (一財)日本消防設備安全センターの評定を取得しておりませんので、  
共住区画の貫通部には使用できません。

## 標準施工例 [中空壁/保温材20mm以下の場合]

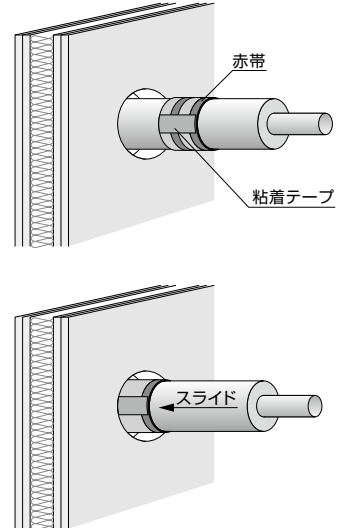
### 1. 開口部の設置

- 保温材付スーパーエスロメタックスが貫通する場所に開口部(φ93mm以下)を設けます。



### 2. フィブロック区画貫通テープの巻き付け

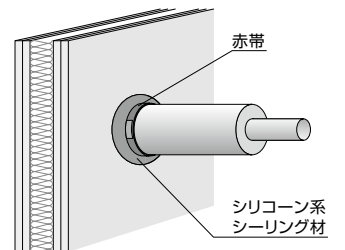
- 表面の埃・汚れを除去します。
- 保温材付スーパーエスロメタックスの上から一周巻きつけるのに可能な長さにテープをカットします。
- 赤帯部分が施工後確認できるように、フィブロックを管に巻きつけ、粘着テープで固定します。(フィブロックは突き付け・オーバーラップのどちらでも可能です)
- 赤帯が壁面から数mm~20mm以下のみ出し量となるように、フィブロックをスライドさせてください。



### 3. 開口部のシーリング処理

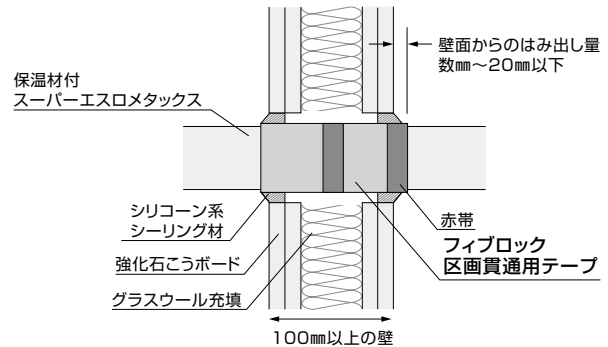
- 管と開口部の両側の隙間をシリコン系シーリング材で充填します。
- 使用可能なシーリング材

建築用シーリング材(JIS A 5758)  
シリコン系  
※推奨品:セキスイシリコンシーラント



※フィブロックの赤帯部分が壁から数mm~20mm以下でていることを確認してください。

### ◎施工状態

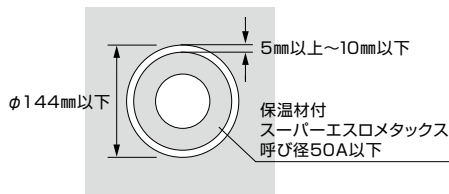


※フィブロックの赤帯部分が壁から数mm~20mm以下でていることを確認してください。

## 標準施工例 [片壁/保温材30mm以下の場合]

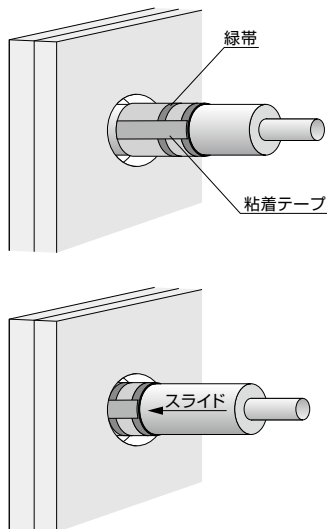
### 1. 開口部の設置

- 保温材付スーパーエスロメタックスが貫通する場所に開口部(φ144mm以下)を設けます。



### 2. フィブロック区画貫通テープの巻き付け

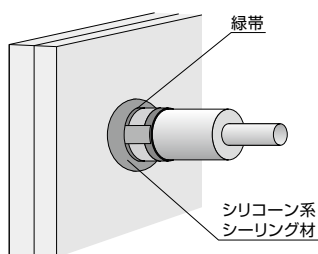
- 表面の埃・汚れを除去します。
- 保温材付スーパーエスロメタックスの上から一周巻きつけるのに可能な長さにテープをカットします。
- 緑帯部分が施工後確認できるように、フィブロックを管に巻きつけ、粘着テープで固定します。(フィブロックは突き付け・オーバーラップのどちらでも可能です)
- 緑帯がある側が壁面から35mm~40mm以下のはみ出し量となるように、フィブロックをスライドさせてください。



### 3. 開口部のシーリング処理

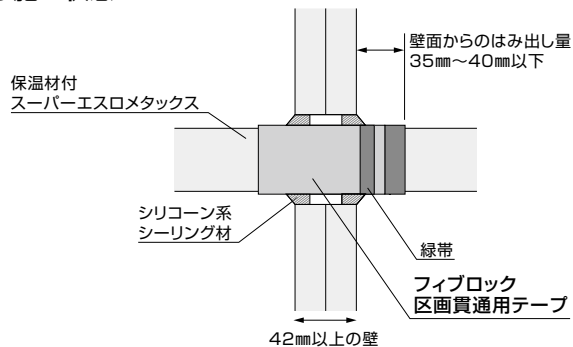
- 管と開口部の両側の隙間をシリコン系シーリング材で充填します。
- 使用可能なシーリング材

建築用シーリング材 (JIS A 5758)  
シリコン系  
※推奨品:セキスイシリコンシーラント



※フィブロックの緑帯がある側が壁面から35mm~40mm以下でいることを確認してください。

### ◎施工状態



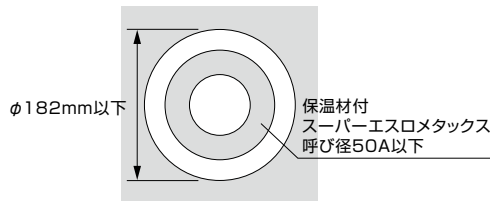
※フィブロックの緑帯がある側が壁面から35mm~40mm以下でいることを確認してください。

⚠ (一財)日本消防設備安全センターの評定を取得しておりませんので、共住区画の貫通部には使用できません。

## 標準施工例 [ALC・コンクリート床/保温材30mm以下の場合]

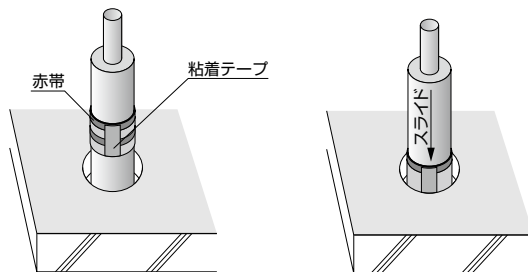
### 1. 開口部の設置

- 保温材付スーパーエスロメタックスが貫通する場所に開口部(φ182mm以下)を設けます。



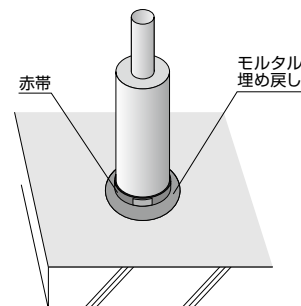
### 2. フィブロック区画貫通テープの巻き付け

- 表面の埃・汚れを除去します。
- 保温材付スーパーエスロメタックスの上から一周巻きつけるのに可能な長さにテープをカットします。
- 赤帯部分が施工後確認できるように、フィブロックを管に巻きつけ、粘着テープで固定します。(フィブロックは突き付け・オーバーラップのどちらでも可能です)
- 赤帯が床から0mm~10mm以下のはみ出し量となるように、フィブロックをスライドさせてください。



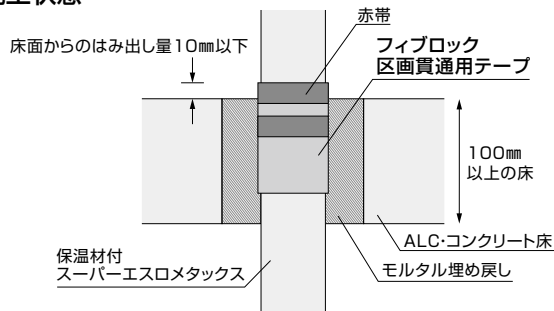
### 3. モルタルの埋め戻し

- 管と開口部の隙間をモルタルで充填します。



※フィブロックの赤帯部分が床から0mm~10mm以下でいることを確認してください。

### ◎施工状態



※フィブロックの赤帯部分が床から0mm~10mm以下でいることを確認してください。

⚠ (一財)日本消防設備安全センターの評定を取得しておりませんので、共住区画の貫通部には使用できません。

## ⚠ 注意事項

- フィブロックの用途、使用条件の詳細については各認定書・評定書、カタログをご確認ください。
- 区画貫通措置以外の目的には使用しないでください。
- フィブロックの幅は規定の寸法となっていますので、幅を変えて使用しないでください。
- 壁用、床用の条件があるものは、用途に合わせてご使用ください。
- フィブロックの帯は壁面及び床スラブ面より規程の長さ以下出すようにしてください。
- 区画貫通部以外の配管露出部に使用しても効力を発揮しません。
- 防水機能はありません。必要な場合には別途、防水処理を行ってください。
- 必要に応じて、手袋や保護めがね等適切な保護具を使用してください。
- 水濡れや直射日光、高温下は避けて運搬・保管してください。
- 紫外線や水、薬品等のかかるところ、高温多湿の環境下、結露する場所では使用しないでください。
- 製品に局所的な荷重が加わると、潰れなどの変形や破れの恐れがあるため、保管や輸送の際はご注意ください。
- 残材や使用後の廃材の処分は、法令及び地方自治体の条例に従ってください。
- 防火区画貫通について不明な点は、所轄の行政機関へご確認ください。

製造元 **積水化学工業株式会社**

耐火材料事業部

<https://www.sekisui.co.jp/fp/>



販売元 **積水マテリアルソリューションズ株式会社**

耐火資材営業所

〒103-0023 東京都中央区日本橋本町4-3-6

TEL 03(6744)5806 FAX 03(6744)5807

●お問い合わせは上記連絡先にお問い合わせいたします。

\*本製品は改良のため予告なく仕様変更する場合があります。

ツールコード

No. 07325

(FP025T)  
2023.11.TX